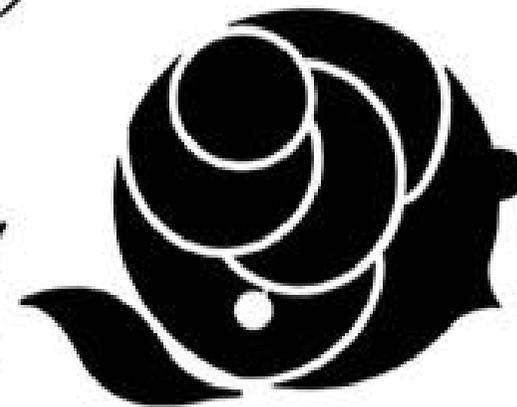


# Rosa Plumula

ローザ・プルムラ



●茨城大学・大学教育研究開発センター

ニュースレター No20

## 目 次

巻頭言 .....	1
はじめまして！「大学教育 研究開発センター」です .....	2 ~ 3
私たち頑張っています.....	4 ~ 9
- 専門部会便り -	
開いて欲しい私の意見 .....	10 ~ 12
- 専門課程への期待・不安 -	
V o i c e .....	13 ~ 15
- 1年を過ごして -	
教養教育古今東西 .....	16 ~ 18
掲示板コーナー .....	19 ~ 20

(平成13年4月発行)

# 入学おめでとう

## - お座なりに仕事を片付けないように -

入学おめでとう。受験勉強から解放されてホットしている人が多いと思います。

さて、これからの大学生活をどのように送るか。送り方いかんで卒業時には大きな差ができます。大学時代に身につけたものはその後の人生で折にふれ様々なことに影響してきます。身につけるものは、知識や技能だけではありません。生きる知恵を身につけることが肝心です。偕楽園の好文亭の茶室の待ち合い所には「巧詐は拙誠に如かず」の額がかかっています。「正直は最良の策」に通じるとは思いますが、学生時代は要領よくやろうとせず愚直に丁寧に仕事をすることができる時です。基本的なことを身につける時です。

氾濫する情報の中で生きる皆さんにこんなことをいうと「時間がない」とか「何が基本なのかわからない」という答が返ってきそうです。時間は自分が作るのです。電話に時間をとられ過ぎていませんか。基本的なことはすべてにあります。

自分がやろうと思ってする仕事は勿論ですが、外から与えられた仕事でも、お座なりにするのではなく、好き嫌いの感情に支配されず、徹底して遂行することでその仕事の基本がわかり、その仕事の面白さがわかるのです。授業を「面白い」とか「面白くない」と評価する前に、「授業の面白さがわかるまで自分は勉強していないのだ」と反省し、精進する努力を惜しまないでください。道は開けます。

(人文学部長 鈴木 由紀生)

## はじめまして！「大学教育研究開発センター」です

大学教育研究開発センター長  
田 切 美智雄

記念すべき21C入学おめでとうございます。それぞれに志をもって茨大（いばだい）に入られたことと思います。茨大の教養教育の責任者として、教養教育の目的と効果について述べたいと思います。

現在、教育を語るときに、教養教育の重要性は必ず踏まえるべき課題になっています。ところで、日本の高等学校までの教育で、教養教育を受けたと思っている人は少ないのではないのでしょうか。高校までは、身体の鍛錬と知識の獲得、それに受験教育だったと感じていませんか。高校までの教育はそれだけではありません。例えば、高等学校理系クラスの科目をみてみましょう。受験科目を除くいくつかの科目はあなたにとってどんな意味を持っていたか。今わからなくても、少し時間が経つと、それらの科目はあなたの人格の幅（例えば趣味の幅や興味の幅）を広げるのに役だっているのに気づくでしょう。

「人は教育によって人になっていきます」。教育の基本は、「生活するための基礎作法」と「生活の糧の基礎技能」を教えることです。より高い教育では、「個々人のための」生活を越えて、「社会が良くなるための」基礎教育となります。教養教育はそのどちらにも含まれています。大学の教養教育は当然のことですが高等教育として設定されています。ですから、一定のレベルと茨大生として必要と思われる範囲が決められています。それが科目の区分です。教養科目は共通基礎科目と主題別科目に分けられ、それぞれがさらに、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報関連科目の一群と分野別科目、総合科目、主題別ゼミナールの一群からなります。どのような科目を選択するかは、あなた自身が決めなければなりませんが、あなたの所属する学部や分野によってもレベルと範囲が決められていますから、履修案内をよく読みましょう。では、それぞれの科目はどんな役割があるのでしょうか。簡単には述べられませんが、上に述べた定義に従うと、次のように考えることもできます。語学と健康・スポーツと情報関連科目は、「基礎技能」を修得することでしょう。理系学部の学生にとっての人文と社会科目や、文系学部の学生にとっての自然科目は、「基礎作法」かもしれません。総合科目は、「基礎技能」と「基礎作法」を同時に修得するために用意された、真に教養的科目です。人間の体に例えると、専門学部が行っている専門科目は、体を作り動かすタンパクやデンプンに相当しますが、教養科目はビタミンのようなものです。つまり、教養教育とは、あなたを健康にし、活力を与えるものなのです。教養科目の中には、全く性格の異なる「主題別ゼミナール」があります。この科目は、大学という経験したことのない社会でとまどわないように、あなた方に勉学や生活の

方法を教えるためのものです。少人数クラスで、これから専門科目を学ぶ先生から、専門科目の勉強方法や情報の取得方法などについて学びます。茨城大学は、学生約 9000 名と教員・職員約 1000 名、合計約 1 万人の巨大な社会です。あなたは、その中で自立した一人の社会人として活動することになるのです。何かわからないことがあったら、先生や職員に相談しましょう。相談に訪れて、情報を得ることも教養教育なのです。

教養教育は主に、1 年生と 2 年生が履修します。しかし、教養を獲得することはそれで終わったわけではありません。茨城大学は、あなた方にビタミンの重要性を教えただけなのですから、以後は独力で教養を獲得することを望んでいます。教養科目を楽しんで、活力ある人格を作ってください。

以下に茨大生に求める 5 カ条を示します。

- (1) 大学生活を楽しめ
- (2) 何事にも積極的であれ
- (3) 創造的であれ
- (4) 自己責任を自覚せよ
- (5) 社会の一員であることを自覚せよ

## 私たち頑張っています 専門部会便り

外国語科目専門部会長  
青木 研二

茨城大学では、5年前に教養部が廃止されましたが、それに伴い教養科目外国語カリキュラムの改革が行われました。英語では、I C, E C, T Rの3つのコースが設けられ、自由に選択履修できることになりました。中でも、E Cのコースはそのほぼ6割を外国人教師が担当しており、30名程度に人数を制限してクラス編成されています。未修外国語の方も、独語・仏語・露語・中国語・日本語に加えて、朝鮮語・スペイン語が開講され、より多様な選択履修が可能になりました。また、昨年度からはセメスター制が導入され、通年2単位であったものが、半期1単位というように、単位の取得方法が変わりました。

とはいえ、大学では、高校の時と比べて、英語の授業時間数がかなり少ないので、大学に入ってから語学力が落ちたというような話をよく聞きます。時間数が限られているという状況の下では、会話の熟達とか、作文力の向上とか、原書を読みこなせる能力とかのはっきりした目標を自分で定めて意識的に学習しないと、英語の力は伸びないと思います。未修外国語に関していえば、英語圏の社会や文化だけでなく、その他の言語が使われている社会・文化に触れることで、柔軟な視点や発想を養うことができるという意義があると思います。大学を出たあとになると、会裕をもって新しいことにチャレンジする時間もなくなり、記憶力も低下してきますから、今のうちに色々な経験をしておいた方がよいのではないのでしょうか。

いずれにしても外国語の上達を目指そうとするならば、毎日こつこつと学習を積み重ねて行かなくてはなりません（今日のライフスタイルにあっては、なかなか実践しにくいことですが）。そしてそのためには、外国語の文字の向こう側にある世界、そこに広がっている様々な学問・文化に対する生き生きした関心・興味を常に抱いていることが大切だと思います。そうした関心・興味の裏付けがないと、外国語の勉強は単なる苦役になってしまいかねませんので。

スポーツを通しての自己実現を！

「大学でまた体育があるの？」という皆さんへ！

そのとおりです。運動好きの人も、今まで不得意グループ？だった人も、幸か不幸か必ず受講しなければならないのです。しかし、これをチャンスとみるか束縛とみるか、それはあくまで「あなた自身」です。まず、実践してみましょう。きっと、「えっ、高校までの体育のイメージと全然ちがうね」と実感できるはずですよ。

どこが違うの？ どんな内容？

授業は、約 30 名の各種目の専門スタッフ（学外講師も含めて）と 100 本のさまざまな実技が用意され、各学部ごとの時間に、前後期で 10 数種類の選択科目が出されています。基本は、1 年時に前期か後期で 1 種類（15 回シリーズ）、さらに 2 年時でも、同じようにもう 1 種類、計、2 種類の運動（スポーツ）をあなた自身で選んで受講します。もちろん、冬期に長野（菅平）で行うスキーなどは人気抜群で、定員オーバーになると抽選の結果、はずれ！なんてこともあります。が、高校までと違って、「自分で選び、自分で積極的にトライする！」点で、高校までとはずいぶん違うものとなっています。

運動嫌いのあなたも大变身？！

「体育、スポーツは苦手で、嫌い！」というあなた。みんなと交流しながら、自分にみあった運動をマイペースで実行し、さわやかな汗を流すことの楽しさが待っています。授業は、より高い、競技レベルに挑戦するコンペティションコース、ふだんの生活や友達とのスポーツをとおしてのふれあいを、より充実させるコンディションコース、どちらかという体育嫌いでマイペースで運動にふれたい人のためのトリムコース、と 3 段階に分かれています。自分にピッタリのコース選択が可能です。

さあ、体力復活、こども時代に戻ってアクティブに運動を！

政府の統計によっても、受験時代の体力消耗は大変なものです。今が、いちばん心身ともに発達するはずの青春時代！私たち、スタッフ一同は、みなさんの青春にふさわしい「スポーツを通してのアクティブなふれあい」を求めて、待っています！

情報関連科目専門部会  
野崎英明

新入生の皆さんが生まれた頃、私が卒業研究で触れた初めてのコンピュータは、大型計算機（多人数の同時使用を前提としたとても高価なコンピュータ）でした。大学内のネットワークもなく、端末が置いてある大型計算機センターまで毎日通ったものです。それから十幾年・・・、もはやコンピュータは特別の機器ではなく、比較的安価な計算・通信・事務用機器として大学や企業等へ広く普及しています。今後はコンピュータの低価格化・通信費の定額化・通信回線の高速化等により、学校や家庭への普及も急速に進むでしょう。もはや好むと好まざるとに関わらず、コンピュータの活用能力は、仕事・生活における必須の基本的能力（リテラシー）となりつつあります。

情報関連科目の基本目標は、皆さんにコンピュータの操作とネットワーク（主として学内ネットワークとインターネット）に慣れ親しんでもらうことです。またネットワークを利用する際のマナーを理解してもらうことも最近重要な目標の一つになってきました。講義の内容は、実際にコンピュータに触れながらの実習が主体となります。講義中は、教官の他にTA（ティーチングアシスタント）の先輩が皆さんの実習を手伝ってくれますので、コンピュータがあまり得意でない人も安心です。

情報関連科目専門部会は、皆さんにより良い講義を提供するためのお手伝いをしています。情報関連科目の受講をきっかけに、新入生の皆さんがコンピュータ、さらには情報処理学への興味を持ってくれれば、私たちとしてはこれに勝る喜びはありません。

人文科目専門部会  
守屋唱進

今日は日曜日。卒業論文の口頭試問を終えて、縁側で真冬の西日を浴びています。何をしてもないこの今が貴重に思われます。新入生諸君も、今という時を大切に生きて欲しい。とりあえず、私たち教官が提供する授業メニューを十分楽しんでいただければ、と思います。

私たち教官もいろいろな面で頑張っています。授業の準備には相当苦心しています。私の専門は哲学ですが、哲学には決まりきった教える事柄というのはありません。他の人文科学も類似のことが言えるのではないのでしょうか。ですから、私の場合、授業は自転車操業で、余裕というものがありません。東洋では「少年老いやすく、学成りがたし」と言い、西洋でも「学問の道は遠けれど、人生は短し」と言います。私の場合、50の坂にさしかかった今も、「学」成らず、です。

だからこそ残された時間，すなわちこの今，を大切にしたいと思うのです。1回1回の授業を大切にしたい。

人文科学の基礎分野として，日本の精神史，というのがあります。日本の哲学を扱う学問として私たちは「日本思想史」という科目を思想文化教室の中に持っています。その担当教官は大変な秀才でしたが，去年の暮れ急逝されました。亡くなる10日前にご一緒に会食しましたのに，すーっと私たちの前から消えられました。「今」を大切にしたいと思います。「今に生きるものは永遠に生きる」(ウィトゲンシュタイン)

社会科目専門部会長  
齋藤典生

入学おめでとう。新たな知の世界への扉が開かれ，新入生諸君は，今そこに第一歩を踏み入れたところです。これから始まる新しい様々な出会いを前に，えも言われぬ緊張感，期待感で胸ふるえる思いなのではないでしょうか。それとも，意外と覚めてますか？

さて，皆さんがこれから取り組む学問の世界は実に多様です。その一つの世界が，私たちが担当する社会の分野ということになります。経済学，経営学，法学，政治学，社会学等々から成るこの分野では，私たち自身が，あるいは私たちが形成する様々な組織が分析対象になりますから，ある意味では非常に身近な学問といってよいかも知れません。

そこで，提案します。人間が，そして様々な組織が織り成す社会現象を日々伝えてくれる新聞を，これからの4年間読み続けるスタートの日にしませんか，今日という日を。もし4年間読み続けるなら，乱れ飛ぶ膨大な量の情報のなかから必要なものを仕分け，的確にキャッチする一種のアンテナが身に付くであろうことは請け合いです。そして，新聞を読まない大学生が増えているといわれる昨今，4年後に，読まないで過ごした人との間には歴然たる差が生まれるに違いありません。

社会の分野への関心を，新聞を読むという行為を通して少しずつ培ってもらいたい。大学生活のスタート台に立った新入生諸君であるだけに，そのことを強く望みたいと思います。

自然科目専門部会長  
堀内利郎

新入生のみなさん，ご入学おめでとうございます。大学生活は多くの皆さんにとり初めての経験であり，毎日が新しい発見の連続ではないでしょうか？またその一方で，何かと戸惑うことも多いかと想像します。

私自身も、数学が専門ということになっていますが、大学に入りたての頃には、何を学ばいいのか決めかねていました。いったん志望分野が決まってからも、あまりに膨大な文献や参考書の山をみて、なんだか「日暮れて道遠しの感」をいただいたのを思い出します。あの頃に、近代における自然科学全体の流れや将来の自然科学の展望がぼんやりとでもがつかめていたら、あんなに苦労することもなかったような気がしています。私たちは、そのような反省も踏まえ、自然科学に関する様々な講義を準備して皆さんをお待ちしています。

例えば、高校で学んだことのない分野を優しく解説する講義や、逆に、将来の専門家のための導入的・専門基礎的講義を用意しました。また、地球の環境問題など明確なテーマをもつ講義や、或いは、最先端の理論等を紹介する講義など、様々なメニューが準備されています。これらを総称して教養の自然科目と呼んでいるわけですが、たとえ将来の専門に直接つながらなくても、これらの講義群が皆さんのお役に立つことを期待しています。

最後に、理学部の新入生の皆さんに一言。将来、自然科目を専攻する皆さんのためには、よりきめが細かい教養的自然科目が初年次から理学部専門科目として準備されています。ぜひこれらを有効に利用して、将来より高く飛ぶための助走期間を有意義に過ごしてください。

ただ一つの望みは、みなさんにどこか教室でお会いすることでしょうか。

**総合科目専門部会長**

**曾 我 日出夫**

新入生のみなさん、御入学おめでとうございます。新しい生活が始まって、それぞれいろいろなことを考えておられることでしょうか、やはり、みんな何か新しい期待や決心があるのではないのでしょうか。

総合科目では、次のような特長が出るように努力をしています。

- ・中学校や高校の教科の枠組みにとらわれないテーマを取り扱うこと
- ・現代社会の動向に密着した話題を広い視点から取り上げること

この特長により、総合科目は授業題目の名杯だけからでは、授業の内容がよく分からない傾向が強いです。ですから、授業料日の選択の際には、ぜひシラパスをよく読んでほしいです。さらに、授業内容を知らせるために、総合科目では、授業内容や担当者プロフィールなどがインターネット (<http://www-crdue.admb.ibaraki.ac.jp/>) や図書館、事務室(教養教育係)の端末機で引き出せるようにしています。ぜひ利用してみてください。また、上に述べた特長を出すため、大学以外の社会人を何人も迎える授業もいくつか用意しています。

このように，総合科目には他にない固有の特長がありますので，その特長を十分活かして履修してほしいです。何ごとも最初が肝心です。よく考えて履修計画をたててください。

## 聞いて欲しい私の意見 専門課程への期待・不安

大場 雅文（理学部3年）

これから専門課程に入ることによって私が不安に思うことは、自分の就職のことや将来のことです。専門課程に入るとは、自分の専門とすることを決めていくことです。しかし、ひとつの分野にうちこむことは将来の選択肢を狭めてしまいます。専門課程をへていざ就職しようという時に、今までやってきたことを生かせる職場がないかもしれません。

専門性がないと踏みこんだ話ができず中途半端なままになる恐れがあります。かといって専門的になりすぎると上で述べたようなことになりかねません。そこで私は、専門的な勉強もし、その上でもっと実践的な講義もやればいいのかと考えます。例えば就職に役立つ技術的な資格（気象予報士、測量士など）を取るのをサポートするシステム。また、茨城大学には自分で考え問題を解決していく授業が少なく感じるので、問題解決型講義などです。具体的には、「身近に使っている化学物質が環境に与える影響を考え、解決策を考えよ」のように自分で問題提起しその解決策を自分なりに考えていくのです。きっと私達学生は絶対に無理なことを書くと思います。それを教授などに指摘してもらいどうして駄目なのか、どうしたらいいのかを学ぶのです。このような経験は、就職して自分が企画立案しなければいけない時にきっと役に立ちます。また、学生のアイデアがよければプレゼンテーションの場を設け広く一般の人に知ってもらうこともできます。そして企業へのアピールの場もつくれるかもしれません。このように実践的な講義があったら、専門性に偏りすぎることなく将来の幅も広がると思います。

専門的な知識はもちろん必要です。しかし、それだけではあまりおもしろくありません。未来につながるビジョンが見えてこないからです。こんなことに役立つ勉強を私はしているという確信があれば、モチベーションがあがります。そんな講義も専門課程にもりこんで欲しいです。これが私の専門課程に期待することです。

飛田 祐作（工学部3年）

現在、私は工学部都市システム工学科に在籍している。2年次となりキャンパスが水戸から日立に移り、いよいよ本格的に専門科目が始まった。しかし、2年次における専門科目とは、数学や物理学といった専門基礎科目が主であり高校の勉強の延長線上といった意味合いが強いものだった。もともと私は数学や物理といった理系科目は苦手な方だったので、そのような講義の内容にほとんど興味は持てなかった。私にとって講義を受けるのが苦痛ですらあった。その結果として

講義の理解度はかなり低いものとなってしまった。そのため、これから始まるであろうより専門的な内容に対して期待よりも不安のほうが大きい。

だからといって全く期待していないというわけではない。私の在籍している都市システム工学科は、その名のとおり都市環境を創造する事をメインとしているが、都市を自然環境の一部として捉え、地球環境問題などについても研究をすすめるなど幅広い分野を扱っている。それらの研究はどれもスケールが大きく、しかも人々の生活に大きく影響を与えるものである。それらを学び、将来そのような仕事に就けることはとても楽しみな事だし、期待もしている。

『自分の学びたい事だけを、学びたいだけ学ぶ事が出来る。』私はそう信じて大学に入学した。しかし、実際に大学の講義を受けてみると学びたいという意志だけでは不十分であることをこの2年間のうちに思い知らされた。十分な基礎知識が無ければどんな学問も成り立たないのだ。私にとって都市システム工学科で学ぶための基礎知識とは数学であり物理学であった。これらを不得意としている私にはどうしても不安は付きまわっていくことだろう。しかし、せっかく大学で学ぶ事が出来るのだからそれらの不安要素に負けることなく、しっかりと知識を身に付けていきたい。『本当に都市システム工学科で学んでよかった。』と胸を張って言えるように精一杯の努力をしていきたいと思う。

伊藤 彩子（農学部3年）

私がこの大学に入学してもう2年が過ぎようとしている。この大学に入学するまではあんなにも大変だったのに、それが嘘のように2年間でアツという間に過ぎてしまったような気がする。

この2年間で何か1つでも専門的知識が増えたかどうかと聞かれると、すごく自信がない。それなりに覚えたこともたくさんあるのだが、全て曖昧だったりして、自信を持って語ることはできない。正直に言って「このままで大丈夫、私？」という感じがある。このまま授業を受けていても、2年後自分が大学を卒業したときに自信を持って社会に出ることが出来るだろうか、社会に通用するような力が身に付いているのだろうか。それが今の私にはとても大きな不安である。

本当は今のような講義中心の授業だけでなく、もっと色々体験してみたいと思う。例えば実習であれば、1つのことにももっと時間をかけてやってみたい。そうすれば自分の知識も増えて自信が持てるようになるのではないか。

そんなことを考えたりもするが、でも本当は授業で教えてもらったことをさらに進めようとしていない自分がいけないのだ、ということは分かっている。目的を持って大学に入学したのだから、授業をただ聞いて

「なんとなく分かった」で終わらせてしまうのはいけないことだと分かっている。でも積極的に何かをやるということがなかなかできない自分に今はすごく焦っている。そしてこう思っているのは私だけではないのではないのだろうか。

しかしよく考えてみると、私にはあと2年間の大学生活が残っているのだ。この2年間で大きく変わることは十分に可能だと思う。残り2年間でどう変わることができるのか、自分に期待したい。と同時に、残り2年間で受ける講義・実習・実験にも期待したいと思う。その中のすごく些細なことが、もしかしたら自分の将来を決定することになるかもしれない。そう思いながら、これからの大学生活をしっかりと頑張っていこうと思っている。

三浦 善哲（人文学部2年）

僕が大学に入学して、もう1年経ってしまった。ここで普通ならば、「大学生活にも、もう慣れ……うんぬんかんぬん……」と書きたいところなのだが、残念ながら、僕はまだ慣れていない。理由はよく分からないがそう感じるのである。そんな僕が、「新入生への忠告」という偉そうな文章を書いてよいのだろうか。自分は、忠告できるほど大学生として成熟していない。だから、新入生のみなさんは、これから私が書くことを、先輩からの忠告とは思わないで欲しい。僕は今だに新入生なのである。

大学生活とは、「自分探しの旅」だと思う。大切なのは、「大学で何ができるか」ではなく、自分が「大学で何をしたいか」である。自分で自分の興味あること、やりたいことを見つけ、自分で研究し、学んでいけるのが大学だ。そして、将来自分がどんな人間でありたいかを考えることのできる時間である。僕は現在「大学で何をしたいか」模索中だ。まだ答を見出せていないし、見出せないかもしれない。

僕の1年間の「自分探しの旅」は、全てが寄り道であった。できる限りいろいろな分野に手を伸ばし、色々なものを見てきた。様々な本を読んだし、勿論、友達とも大いに遊んだ。そうした寄り道のあげく、今僕は、1年前と同じ場所に戻ってきた。新入生のみなさんが立っているであろう場所と同じ地点、いわば、「自分探しの旅」の出発点である。無駄な1年と思われるかもしれない。勿論、無駄な寄り道もあったし、その方が多かったかもしれない。しかし、これが僕の「自分探しの旅」なのである。僕が新入生に言えるのは、それぞれの「自分探しの旅」にでよう、まっすぐ進んでもいい、引き返してもいい、自分なりの「自分探しの旅」をしよう。と、それだけである。

もし、皆さんがそれぞれの旅の途中で僕と出会うようなことがあったら、気軽に声をかけてください。その時までには先輩といえる存在になっているかどうか分かりませんが……。

飛田 かおる（教育学部2年）

辛く苦しい受験からやっと解放されましたね。思いっきり羽を伸ばしたい、そんな気分ではないですか？大学生になったら、こんなことやあんなことをしようと考え、自然と大学生活への期待は高まりますよね。実際に大学生になったばかり

りの頃、色んな人との出会いがあって、友達の輪が凄く広がります。なんせ北は北海道、南は沖縄からこの茨大に来るんですから。学科やサークルで新歓コンパもあります。酒の味は急速に覚えていくことでしょう。先輩の中には車を持っている人も大勢います。色々な場所へドライブに連れていってもらえるかもしれません。そうやって皆と遊ぶことによって得られるモノってたくさんあるんですよ。この1年間を振り返って、本当にそう実感しています。ただ、あんまり浮かれてフワフワしていると、「若者」ではなく「バカ者」と呼ばれるような事態に陥るので、そうならないよういくつかアドバイスします。

まずはお酒について。前文でのべたように、大学に入るとすぐにお酒を飲む機会があります。自分がお酒に強いのか弱いかわからない人は、飲み過ぎないように。特に女の子は、自分を大切にする意味でも潰れるほど飲んではいけないと思います。あと、飲んでる人の「少し寝れば酔いが覚めるから送ってくよ。」の言葉にはのらないこと。事故を起こしたら、運転手の責任です。その人のためにもさり気なく断りましょう。実際、飲酒運転のせいで民家に突っ込んだ先輩もいるんですから。

次に勉強面について。1年生のうちは教養科目という様々なジャンルの勉強をします。高校までと違って自分で授業をえらべます。興味のない分野なら、テストなどのない楽なものを選択して、自分のための時間を増やした方がよいです。大学は4年間ですが、実際には3年間のうちに自分に適した職をみつけなければなりません。だからできる限り自分の時間を作るべきです。最後に、水戸の交通について一言。茨城の交通マナーは、はっきり言ってひどいです。車を運転する人も自転車を通う人も十分気をつけましょう。

茨大の学生は、気取らず気さくな人が多いと思います。早く学校に慣れて、楽しい学校生活を送って下さい。

**吉野 彩（理学部2年）**

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

みなさんは今、新しく始まる生活について、期待と不安が入り混じっていると思います。私が1年間大学生活を送ってきて感じたことなどをここに正直に書きますので、みなさんにとって何かの足しになればと思います。

この春から、一人暮らしを始める人が沢山いると思います。一人暮らしをすると、孤独を感じてしまう人と、自由奔放になる人と2タイプ現れます。まず、孤独を感じてしまいそうな人、その人はいろんな人に声をかけてみてください。相手に嫌がられるんじゃないか……なんて心配はいりません。みんな友達を求めているので、怖がらずに話しかけてみましょう。その人が一生の友達になるかもしれないのですから。それと、自由奔放になりそうな人。このタイプの人には、しばしば学生という本業を忘れてしまう人もいます。ガイダンスを受けると、意外と大学卒業するのは簡単なんじゃないか

と思う人もいますかと思いますが，勿論勉強しなければ卒業できません。解放されすぎて学生だということを忘れないように気をつけてください。(笑)

次に講義について書きたいと思います。1年生のうちにはほとんどが教養科目ですが，講義を選ぶ時には，面倒くさからず慎重に選ぶことをお勧めします。サークルなどに入ったら，先輩に聞いてみるとどの講義が良かったか快く教えてくれます。シラパスだけでなく，そういうところからも情報を得ると良いと思います。それと，単位は計画的に取ることが大事です。教養科目は1年のうちに取ってしまった方が，2年次以降取りたい授業と重なったりしないので良いと思います。

私はこの1年間を通して，本当に中身のある大学生活を送るには意志と目的を持つことが大切だなと思います。大学時代は，人生のうちでも本当にやりたいことをやれる数少ない期間の一つだと思います。逆に，何もしなければそれで終わってしまいます。これから始まる大学生活がどのようになっていくのかは，みなさんの意思次第です。ここで得た失敗も成功も，必ず将来役に立つので，怖がらずやりたいことは何でもやってみてください。未熟な文章なので伝わらなかったかもしれませんが，新入生のみなさんが，有意義な学生生活を送れることを願っています。これから4年間，今の気持ちを忘れずに頑張ってください。

## ブレーメン大学の生涯教育

佐藤 和夫（人文学部）

1999年4月から8ヶ月ほど滞在する機会を得たブレーメン大学での見聞を少々書いてみます。この大学は1971年創立の、ドイツではきわめて新しい大学です。

そのため多くの伝統大学とは異なりキャンパスは一つです。

ご存じの方も多いかと思いますが、ドイツの大学には日本のような教養科目の「しぼり」はありません。ところでゲーテの『ファウスト』の冒頭「夜」の場面で老大学者ファウスト博士は「ああ、これでおれは哲学も、法学も、医学も、要らんことに神学までも、容易ならぬ苦勞をしてどん底まで研究してみた」(相良守峯訳)と述懐していますが、これらの学科は中世では互いに横に並んでいるのではなく、ファウスト先生の語った順に積み上げていくものだったようです。したがって先生のように最後の学科まで熱心に勉強していくと紅顔の美少年もいつの間にか白髪の老人になってしまいます。それにもかかわらずちっとも賢くなったと思えなかった老先生は魂と引き替えに若返らせてくれると言う悪魔のささやきに乗るわけですが... それはさておきここで言う哲学科は日本の大学の文学部に相当します。そしてこれが学問の入り口となるわけで、言うならば広い意味での「教養」にあたります。つまり大学の用意する文系の科目は学生にとってはもちろん、学生でない人にとっても学問への入り口になるわけです。

ブレーメン大学も学生ではないけれど大学で学びたい人のために様々な機会を提供しています。その中心になっているのが「生涯学習センター」(より詳しくは「(年配者のための)継続教育センター」)です。このセンターでは独自のプログラムも用意していますが、同時に大学が学生用に用意している講義・演習の一部も聴講できるようになっています。例えば独自のものとしては「ドイツロマン主義」という講義がある一方で、「ギュンター・グラス」の演習に一般学生と一緒に参加もできます(ただし人数制限あり)。

加えて長所は費用です。負担する費用は登録料を含めて半期で140マルク(筆者の滞在中1マルク=約70円)のみで、福利厚生面は学生扱いとなり、これを納めれば後は時間と能力の許す限り何科目でも取れますし、学生食堂(定食:一般6マルク、学生3マルク)も学生値段で利用できます。総計20時間以上登録すれば交通機関の定期券(一般60マルク、学生45マルク)も学生扱いです。ちなみに定期券はブレーメン交通会社の守備範囲ならすべて乗り降り自由で、大学構内

へはバスと市電が各方面から直接乗り入れています。

大学で学べるありがたさは年を経てわかるものなのかもしれません。前述の「ロマン主義」のクラスに参加していたのは大部分がおじいさん、おばあさんで、主婦とおぼしき人が少々、東洋人中年男性は筆者一人でした。

## コミュニケーション時代の英語（？）

長澤 邦紘（教育学部）

一般教養の英語を教え始めて35年になる。振り返ってみて面白いのは、この年月の中での自分の英語授業の方法というか内容の変化が、自分の英語教師としての身分の変化をまともに反映しているということである。ふつう、大学の英語の先生は、生涯を通じて、英文学の先生であったり、英語学の先生であったりするのだが、私は30代前半に「英文学の先生」から「英語教育担当」に変身した。「英語教育担当」とは何か。教育学部にあって、将来、英語の教師になる人たちを教育する立場である。もちろん、教育学部で教えている英文学の先生や英語学の先生もその任にある。私の場合は、いわばもっと直接的に、中学生や高校生に英語をどう教えるかとか、教えるとき大事なことは何かというような教育の方法論にかかわる立場にいるということである。

「人間は教えられたようにしか教えられない」ということを身をもって感じている。茨城大学に赴任した当時は、自分が大学時代に慣れ親しんだ英語勉強法（というか、英文学の勉強法）を一般教育の英語授業法として使った。つまり、文学的作品をテキストに選んで、訓古学的にやったのである。（文学研究はまずテキストを理解するということから始まるのです。）これが私の英語教師第一期。第二期は「文化」が入ってくる。これは自分の専門を英文学から英語教育に変えた頃に相当し、やたら異文化理解に興味をもって、自分の興味を学生に押しつけた。第三期はイギリス留学（40代前半）以後に来る。その頃は「英語はコミュニケーションの手段である」という観念に頻り固まっていた。これは現在も少しずつニュアンスを変えながら続いている。

私のクラスは“EC”（English communication）のクラスなので、受講生は皆、英語コミュニケーションに関心を持っている者ばかりである。しかし、彼らの口は開かない。英語は話したいが、話すことを拒否する。（もちろん、全員ではないが。）たまりかねて、私は尊敬する言語学の大家に質問した。師曰く、「日本人は昔から、西洋的なものに憧れると同時に峻別してきたのだよ」この際、「峻別」を「拒否」と置き扱えると非常にわかる。これを簡単に言うと、「日本人は英

会話がうまくなりたいと思う一方、そのための努力はしない(あるいは心のどこかで拒否している)」ということになる。長年、「コミュニケーションのための英語を！」と、張りきってやってきても、あまり進歩がないのである。

こういうとき、人間はつい昔のことを振り返ってしまう。赴任当時のあの「読んで訳す(あるいは注釈をする)」というやり方は本当に悪かったのだろうか、と。方法論は拙かったかもしれないが、私も学生も生き生きしていたような気がする。35年も教えているのだから、とくに「完成されたシラパス」を持っていてもよさそうなものだが、この分では、来年度もまたシラパスを書き直さねばならないだろう。

# 掲 示 板 コ ー ナ ー

## 掲 示 板 に 要 注 意 ！

学生用掲示板は，学生諸君に連絡事項を伝達するための，唯一の方法です。

## 必 ず 掲 示 板 に 一 目

掲示板には，大学の行事，休講のお知らせ，教室の変更，学生呼び出し，試験及び授業に関する事など，学園生活に必要な事項が掲示されます。

掲示板を見ないことにより，所定の期日までに手続きなどができず，不利な取扱いを受けることもあります。登校，下校，授業の合間の際に掲示に注意してください。

## - 毎 日 1 回 は 見 ま し ょ う -

## 自 転 車 の 駐 輪 に つ い て

自転車の駐輪に際しては，歩行者及び車輛等の通行に特に支障をきたしておりますので，定められた場所に駐輪してください。特に道路上の駐輪については，事故の起こる可能性が非常に大きくなっています。指定された駐輪場に，他の人に迷惑のかからないように駐輪してください。

学生諸君のご協力をよろしくお願いします。

## 携 帯 電 話 の 使 用 に つ い て

講義棟内や公共の場では，携帯電話の電源を切っておくか，マナーモードに設定しておくようにしてください。

学生諸君のご協力をよろしく申し上げます。

つ　ぶ　や　き

今年も桜の咲く季節となりました。新入生の皆様ご入学おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。私は今年5月で大学教育開発センター運営委員を無事卒業する予定になっています。

しかし、やっと慣れてきたところであり少々寂しい感じもします。これまで教養教育についての議論のやりとりも今は懐かしく思い出されます。ただ残念なことは、教官との議論はしましたが学生との議論がなかったことです。

いずれにしろ、茨城大学に入学してよかったと思える教育研究がなされ、この大学が益々発展するよう、ともに努力していきたいものです。さいごに、これまで色々迷惑をかけてきました事務職員ならびに教官諸氏にお礼申し上げます。と一応挨拶がましい事をかきました。宮沢賢治ではないが学生諸君でお因まりのことがあれば大学教育開発センターをお訪ね下さい。やさしい先生方が丁寧に教え、導いて下さいます(?)

(Y.A)

発行日 平成 13 年 4 月

発行者 茨城大学 大学教育研究開発センター  
水戸市文京 2 - 1 - 1

029 ( 228 ) 8416 ( 学生課教養教育係 )